

# Linux

## systemctl edit (drop-in snippet) を使う時は、"systemctl show" で確認すべし

サーバーに複数のIPアドレスを割り当てている場合に、明示的にListenIPアドレスを指定したい場合がある。  
例えば、postfixで、

```
inetinterfaces = 127.0.0.1, 192.168.1.1
```

等を設定した場合、OS再起動するとpostfixが起動に失敗するケースに遭遇する。  
ネットワークインターフェースがLinkUpする前に、postfixが起動してしまい、指定したIPアドレスの25/TCPポートを割当出来ない状態だ。

対応方法としては、systemdのユニットファイルを編集するのが一般的であろう。  
今回はpostfix.service を例として、"systemctl edit postfix.service"でユニットファイルを編集する場合について。

```
"systemctl edit postfix.service"で
```

```
[Unit]
After=network-online.target
```

として保存すれば、今回の要件は完了する。

だがデフォルトでは、  
After=syslog.target network.target  
となっていて、syslog使ってないし、network-online.target があれば、  
(他のサービスで立ち上がるはずなので) "network.target" 不要じゃないか！と  
思った時、つまりは、デフォルトで記述されている場合を削除したい場合だ。

結論から言えば、著者は、"systemctl --full edit postfix.service"でしか対応しきれなかった。  
--full オプションは、すべての設定項目を記述する。保存先は、/etc/systemd/system/postfix.service となる。

```
[Service] セクションであれば、例えば、
ExecStartPre=
ExecStartPre=hogehoge
と書けば、1行目のExecStartPre行でクリアされ、2行目の1行のみとなる。
```

同様の事を[Unit] セクションで行ったが、  
[Unit]
After=
After=network-online.target  
としても"network-online.target"が追記されるだけで、"syslog.target"も"network.target"も存在する。

だいぶん話が脱線してしまったが、これらの調査を行った際に利用したコマンドが、

### ○ 編集する場合

- ・ systemctl edit postfix.service

### ○ デフォルト設定部分を含んだユニットの設定内容を確認する場合

- ・ systemctl cat postfix.service

### ○ 反映された設定内容を確認したい場合

- ・ systemctl show postfix.service -p After

ちなみに、"systemctl show postfix.service"とすると、ユニットファイルに記述していない項目も出てくるので、  
-p オプションで After とか、ExecStartPre とか書けば、その行が表示される。  
ま、grep しても良いが・・・

# Linux

man を見ると、"systemctl edit" で編集保存すると、"systemctl daemon-reload"を(自動)実行してくれるようだ。

確認環境

Rocky Linux release 8.9 (Green Obsidian)

添付ファイル::

一意的なソリューション ID: #1050

製作者: n/a

最終更新: 2024-02-29 03:07